

# — 関西学院大学 —

2月1日 全学部 英語

## 解答

[I]

- A. (1) b (2) c (3) a (4) c (5) d  
 (6) d (7) a (8) b (9) c (10) d  
 B. (ア) d (イ) b (ウ) d (エ) d (オ) b  
 (カ) c (キ) c  
 C. b, f, i (順不同)

[II]

- A. (ア) b (イ) d (ウ) c (エ) a (オ) c  
 (カ) b  
 B. (1) b (2) c  
 C. (1) c (2) a (3) d

[III]

- A. (1) c (2) b (3) d (4) b (5) d  
 (6) a (7) a (8) d  
 B. c, d (順不同)

[IV]

- (1) b (2) d (3) b (4) d (5) d  
 (6) a (7) d (8) a (9) c (10) a

[V]

- (1) 2番目 a 7番目 d (2) 2番目 c 7番目 b  
 (3) 2番目 a 7番目 f (4) 2番目 e 7番目 h  
 (5) 2番目 h 7番目 c

[VI]

- (1) b (2) c (3) d (4) a (5) b  
 (6) a (7) d (8) c (9) a (10) a

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

**解説**

## 大問IV

- (1) **deprive (人) of** 「(人)から～を奪う」と **access to** 「～へのアクセス、～を見る権利」の2つが問われている。
- (2) **go over** ～で「～を見直す」という意味。
- (3) 仮定法の慣用表現 **if it were not for** ～「もし(今)～がなければ」の **if** の省略により、倒置が起こった形にする。
- (4) 前述の **the + 名詞** の単数形の反復を避けるために用いられる **that** が問われている。ここは前述の **The recovery score** を受けて用いられている。前述の名詞が **the + 名詞** の複数形なら **those** を用いる。
- (5) 「～する限り」(～という範囲内では)という意味では **as far as** ～を用いる。同じ「～する限り」でも、「～という条件ならば」といった条件を表すのは **as long as** ～である。しっかり区別して覚えておこう。
- (6) **No sooner** ～ **than** …の比較の慣用表現であるが、**No sooner** という否定の副詞が前に来ることで倒置が起こることと、時制が **than** 以下よりも一つ前になる(ここでは過去完了形)ことに注意しよう。
- (7) 関係代名詞と関係副詞の使い方の違いをしっかりと理解しているかを問う問題である。関係代名詞 **which** を用いるならば、**in which I used to live** か **which I used to live in** と前置詞が必要になる。また、「かつてはよく～したものだ」という過去の習慣を表すときに、状態動詞の場合は **would** を使うことはできないということも覚えておこう。
- (8) 「もし次の土曜日にまた運転免許試験を受ければ」という前半部分から未来の表現であることに気付き、主節(後半部分)は未来完了形にする。
- (9) **more often than not** で「しばしば」という意味である。**often** や **frequently** などと似た意味を持つイディオムとして覚えておこう。
- (10) **all** の後ろに名詞が来るときの形を問う問題である。可算名詞であれば、正しい形は次のいずれかである：**all of + the** 名詞の複数形か **all + 名詞** の複数形、もしくは **all the + 名詞** の複数形である。本問であれば、**all club members**, **all the club members**, **all of the club members** のいずれかである。選択肢 a のみが正しい形になっている。

## 大問V

(1) ポイントは、以下の2つの後置修飾である：

1. The photographs ← ( taken shortly after our arrival )
2. an England ← ( from a vanished era )

並べ替えた英文は以下の通りである：

The photographs ( taken shortly after our arrival show an England from ) a vanished era.

(2) ポイントは、以下の2つである：

1. 目的格の関係詞 that の省略  
All the things ← ( [ that ] I had taken for granted )
2. 弱い過去推量 may have Vp.p 「～だったかもしれない」

並べ替えた英文は以下の通りである：

All the ( things I had taken for granted may have been ) an illusion.

(3) ポイントは、以下の2つである：

1. help + O + (to) V 「O が V するのに役立つ」
2. 「S とはどのようなことなのか」 What is S all about ?  
なお、本文では名詞節として使われているので語順は what S is all about となる。  
よって、what life is all about という語順で並べる。

並べ替えた英文は以下の通りである：

Philosophical thinking helps ( you figure out what life is all about ) .

(4) ポイントは、使役動詞(make)の受動態である。その場合、目的格補語の原形不定詞は、to をつけて受動態にすることを忘れないようにしたい。念の為、能動態から受動態への変化を以下の2文で確認しておこう。

能動態 They made us wait for half an hour due to ～.

受動態 We were made to wait for half an hour due to ～.

並べ替えた英文は以下の通りである：

We were ( made to wait for half an hour due ) to the train delay the other day.

(5) ポイントは、以下の2つである：

1. 無生物主語構文の読みとり  
「最近の調査によると～」→「最近の調査が～と示している」と読み換えて  
Recent surveys show ～ と書き始める。
2. 「～に関して言うと」→ when it comes to ～

並べ替えた英文は以下の通りである：

Recent surveys ( show that when it comes to job satisfaction ), most people say their salary doesn't necessarily take top priority.

**その他の大学・学部の解答解説はコチラ！**

**増田塾 2019 解答速報ホームページ**

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！